

大学生の就職活動の実態と支援 ～進路未定者に着目して～

堀 有喜衣

(独立行政法人労働政策研究・研修機構)

一 はじめに

本稿の目的は、大学生の就職活動の実態と支援について、学生に対する調査から検討することである。特に、進路未定者に着目して分析する。

来年度卒業予定の大学四年生に対する求人はバブル期なみの水準に達し、活発な採用活動が繰り広げられた。第一志望の企業に内定する学生にスポットがあたっているが、こうした景気回復はすべての学生に及ぶのだろうか。

はじめに、昨年度までの大卒求人倍率と、大卒無業率との関係のみをみよう(図1)。求人倍率が高いと大卒無業

率も低いという関係ではあるのだが、九六～九八年に求人倍率が上がったからと言って、大卒無業率が下がっているわけではなく、また二〇〇二年に求人倍率が回復しても、大卒無業率が回復しているわけではない。大卒無業率は、大卒者に対する需要に規定される部分が大きいものの、新卒に対する求人だけで決定されるわけではないことがうかがえる。

どんな学生がどのように就職活動をして卒業後の進路を決定していくのか、あるいは未定のまま卒業するのか。こうした点については、学生個人に対する調査から検討される必要がある。

そこで本稿では、独立行政法人労働政策研究・研修機構

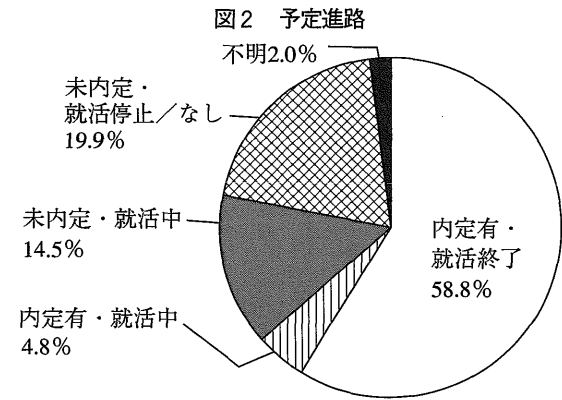
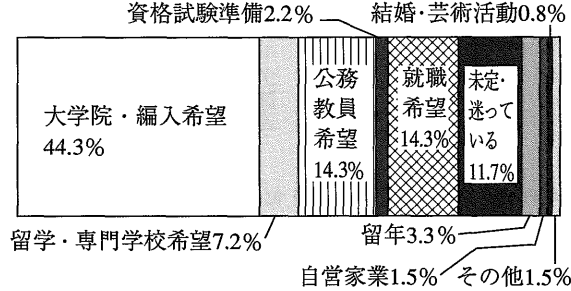


図3 上の円グラフのうち「未内定・就活停止/なし」の予定進路内訳



三 就職活動における差異
 それでは、正社員内定者と、「内定なし・就職活動中」「無活動・就職希望」「無活動・未定・迷っている」の者の就職活動には差があるのだろうか。

三 就職活動における差異

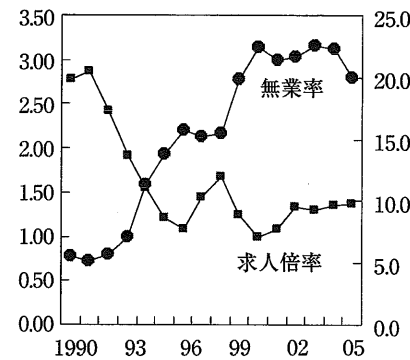
以下では、「正社員内定（内定有・就活終了）」、「内定なし・就職活動中（未内定・就活中）」、「無活動・就職希望」、「無活動・未定・迷っている」に着目し、それぞれの就職活動について見ていく。

四・三％いる。
 以下では、「正社員内定（内定有・就活終了）」、「内定なし・就職活動中（未内定・就活中）」、「無活動・就職希望」、「無活動・未定・迷っている」に着目し、それぞれの就職活動について見ていく。

が四・八％、まだ内定をもらっておらず就職活動を継続中の者が一四・五％いた（図2）。これに対して、内定企業がなく、かつ現時点で就職活動をしていないという者も一九・九％いた。なお『学校基本調査』と比較してみると、本調査はやや就職者の割合が高いデータとなっていることに留意する必要がある。

内定企業がなく就職活動をしていない者について、図3を見ると、約半数が、大学院・編入や留学、専門学校など、卒業後に何らかの就学を目指している。就学を目指す以外の予定進路についてみると、卒業後について「未定・迷っている」という者が一・七％、就業希望がありながら就職活動をしていない者が一三・一％いる。この他、公務員や教員を希望している者（未内定）が一四・三％いる。

図1 大卒求人倍率と大卒無業率



資料出所：リクルートワーク研究所（各年）「大卒求人倍率調査」、文部科学省（各年）「学校基本調査」
 注：2000年以降は、「学校基本調査」では「無業」でなく、大学院等への進学や就職、一時的な仕事を除く、「左記以外のもの」と表現されている。また、2004年からは「専修学校・外国の学校等入学者」を別掲しているが、ここでは連続性を確保するため無業に含めている。

が二〇〇五年秋から冬にかけて実施した「大学生のキャリア展望と就職活動に関する実態調査」を用いて、大学生の就職活動の実態に迫っていく。調査対象の抽出と調査方法は、以下のとおりである。

調査対象：全国の四年制大学（医学・看護学・宗教学の単科大学を除く）のうち、協力を得られた二七六校の四年生（医学部、歯学部、看護学部の学生を除く）。調査票配布数は、約四万九〇〇〇票（Web調査分を除く）。

各大学における学生の抽出は、できる限り該当大学の学生全体を代表する構成になるように依頼したが、学事日程等の都合で、内定者のみに配布した場合や一部の学部のみ配布したことがある。また、配布数も、大学の状況によって異なり一律ではない。

調査方法：各大学の就職部・キャリアセンターを通して学生に配布した。具体的には、就職ガイダンス等やゼミ等の機会に直接配布する、大学から学生宅に郵送する、大学からWeb調査のアドレスを配信・掲示する、のいずれかの方法によった。また、Web調査分以外の回収は、回答者が各自封入後、大学で回収してからの返送と本人からの直接の郵送の二通りによった。

実施時期：二〇〇五年一〇月～十一月
 有効回収票数：一万八五〇九票

二 予定する進路

対象者は卒業後、どのような進路を予定しているのだろうか。四年生秋の時点で内定を得て就職活動を終えている者が五八・八％、内定はもらったが就職活動を継続中の者

表1は、どのようにして情報収集をしているのかを予定進路別に検討した。

正社員内定者と内定がない者において差が見られる項目は、「会社説明会やセミナーなど」である。情報誌やウェブサイトの情報はいわば誰にでも手に入る情報であるが、実際に説明会やセミナーに参加しなければ、企業の雰囲気を感じることはできないし、また説明会やセミナーが選考を兼ねている場合もある。OB・OG訪問と同様に、実際に足で稼ぐ情報収集の努力は重要であるが、パソコンの前で就職活動をしている気分になってしまっている学生は少なくない。

また、大学就職部・キャリアセンターの利用にも差が見られる。「正社員内定」や、「内定なし・就活中」は、大学をうまく活用している。「内定なし・就活中」は、大学を活用したために内定を得ていないのではなく、大学の支援が役立つているために就職活動を継続していると推測できる。「無活動・就職希望」「無活動・未定・迷っている」では、内定者や活動継続中の者に比べて低くなっており、大学を十分に利用していないことがうかがえる。

次に、企業との接触について平均をみたのが表2である。

表2 予定進路と企業との接触

	説明会参加企業数	面接を受けた企業数
全体平均	11.7	5.7
正社員内定	14.7	7.2
内定なし・就職活動中	6.5	2.9
無活動・就職希望	5.4	1.7
無活動・未定・迷っている	3.5	1.1

正社員内定者に比べると、「内定なし・就職活動中」「無活動・就職希望」「無活動・未定・迷っている」いずれも企業との接触が少ないため、相対的にチャンスは小さいと推測できる。内定なし・就職活動中については、活動が始まって間もない業種・職種もあるため、これから接触企業が増え、内定につながっていく可能性がある学生も含まれている。しかし、そもそも企業に接触しなければ、内定はおぼつかない。すでに活動を停止してしまっている学生には問題が大きい。

続いて、就職活動中の相談相手に着目してさらに検討を加えた(図4)。まず「正社員内定」者に比べると、未定者の相談は

表1 就職のために役立った情報源(第1位)と予定進路

	正社員内定	内定なし・就活中	無活動・就職希望	無活動・未定・迷っている
就職情報誌	2.4	4.4	7.1	7.0
就職支援ウェブサイト	46.5	34.6	46.2	43.2
会社説明会やセミナーなど	22.1	12.9	13.3	11.9
大学の就職関連行事・事業	3.4	5.2	3.1	4.3
大学の就職部/キャリアセンター	11.2	22.1	6.7	4.9
大学の先生	3.7	4.6	2.2	1.6
インターンシップ	1.0	0.7	2.2	0.5
OB・OG訪問	2.4	1.3	2.7	2.2
公的な就職支援機関	1.1	4.1	2.2	1.6
家族・親族・保護者	2.4	2.3	3.1	4.3
友人	3.0	3.7	3.6	7.6
その他	0.0	0.0	0.0	0.0
無回答	0.7	4.2	7.6	10.8
合計	100.0	100.0	100.0	100.0

不活発であり、特に先輩や大学の先生・職員・カウンセラーに相談する割合が低い。内定は得られていないが、就職活動を続けている学生は、大学の先生・職員・カウンセラーに相談する割合は正社員内定者とそれほど変わらないが、現在就職活動を続けていない学生や迷っている学生は低くなっている。

とりわけ迷っている学生においては、誰にも相談しなかった割合が高くなっており、迷っている学生が孤立する状況がうかがわれる。

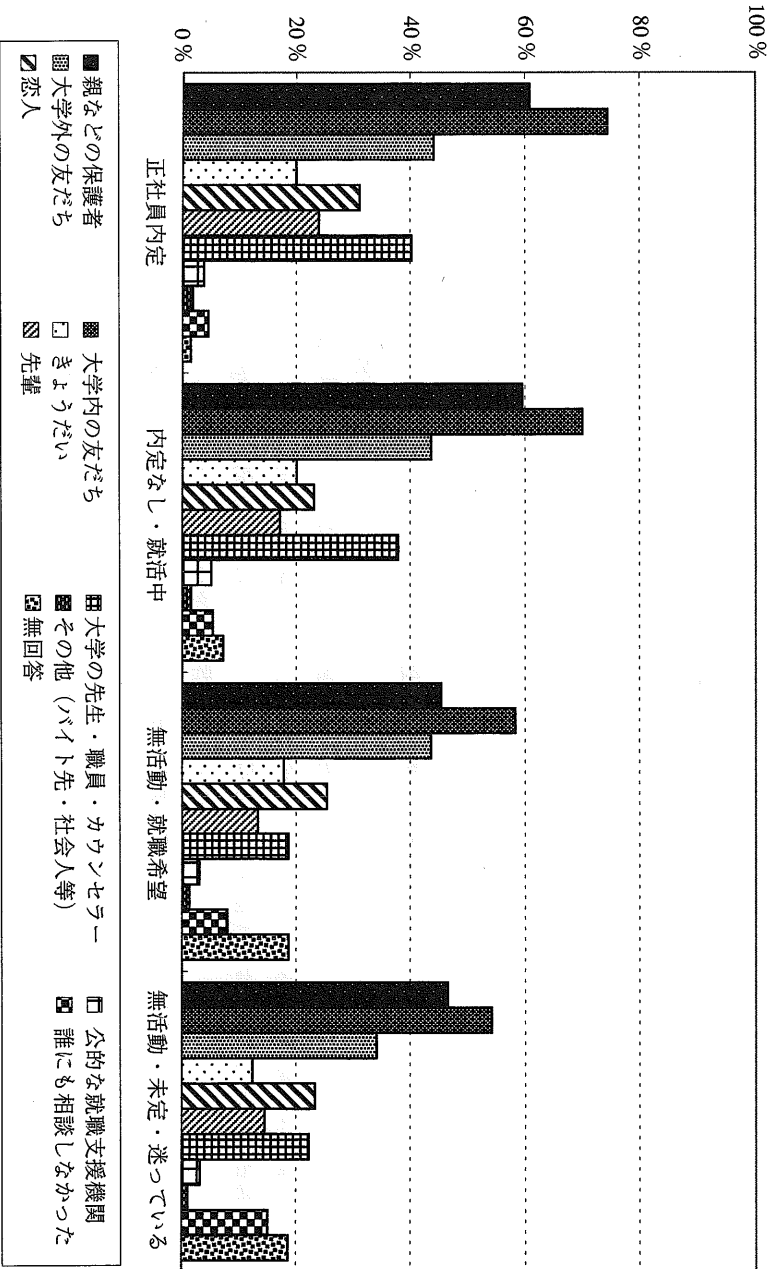
四 未定者の卒業後の予定

活動をやめてしまったり、そもそもしていない未定者は、卒業後どうしたいと考えているのだろうか。本調査では、卒業後の予定や今困っていることについて、自由に記述してもらっている。その中から、代表的なものを紹介しよう。

〈無活動・未定・迷っている〉

「何社か受けたがいずれも内定を取ることができなかった。そのため、自己分析を繰り返し、自分のやりたい事

図4 予定進路別・就職活動中の相談相手



「したい事がわからなくなった」 (法、二二歳、男性)

「まだやりたいことがわかってないからこんな時期だがう(こ)けない。……どうすれば就活にふみだせるかを知りたい。今一歩踏み出せない」 (商・経、二二歳、男性)

「就職活動について、具体的なことが(何をすれば良いのか)全くわからない。学校も「早くしろ」とは言うが、それだけである」 (社会福祉、二二歳、女性)

「とくに、何も考えていない。まだ自分がしたい事がわからないので、いろいろな本や、いろんな人と話をして、自分を見つけようと思ってる」 (人文、二二歳、女性)

「院にいきたいけれど、経済的な問題で(就職活動を)やります。……また、迷っている。相談できる人がいな(う)」 (農学、二三歳、女性)

〈無活動・就職希望〉

「福祉資格の国家試験が来年一月にあるので、就活はしておらず、勉強中。終わり次第、就活を始める予定(福祉関係、医療関係で)」 (社会福祉、二二歳、女性)

「内定待ち、落ちたらまた来年受ける」 (芸術、二四歳、男性)

「内定を頂いたのですが、自分のやりたいことに挑戦したいと思い、やめました。保育資格を取得して養護(児童)施設につきたいです」 (家政、二二歳、女性)

「地元に戻りたいので、近々地元のハローワークに行くかと考えています」 (社会福祉、二二歳、女性)

「自分が希望する施設(仕事内容、必要な資格など)がなかなかない」 (社会福祉、二二歳、女性)

「企業で、人事面接を受け、アルバイトから働くことに決まった。特にその企業で働きたかったのでアルバイトからでも働こうと思った」 (工学、二二歳、女性)

「今しているアルバイトで社員の人にキャリア社員の試験を受けないかと言われているので受けるつもり。今もリーダー手当をもらっていてやりがいがあるため」 (商・経、二三歳、男性)

「就職活動に踏みきれずにいる。フリーターでもいいのでは? と思ってしまうこともあるし、海外留学をして専門性を深める勉強もしたいと思う。方向性が見えなくて、困っている」 (社会福祉、二二歳、女性)

「アルバイトをして資金をためて、留学することを希望します」 (商・経、二三歳、男性)

多様な自由記述から、社会に出ることに悩む若者像がうかがいあがってくる。

「未内定・迷っている」場合は、①就職活動中につきまつき、方向修正に悩んでいる、②やりたいことがわからない、③どうしたらよいかわからない、④ゆつくり考えたい、⑤進学との間で悩む、などのパターンがある。

「無活動・就職希望」は、①今は資格試験に集中する、内定まち、方向転換、②地元に戻りたい、③就きたい仕事の求人がない、④就きたい仕事のためにアルバイトから入職、⑤様々な進路で悩む、⑥やりたいことのためにアルバイトで資金稼ぎ、などに分けられる。

以上のように、進路未定の学生につきまつきや悩みは、大学で対応できないような問題も含まれており、こうした問題に大学が直接対応することは難しいが、大学が支援できるケースも少なくない。彼らは集団的支援に馴染まなかつた層であることから、大学側から学生に、個別の支援を働きかけていくことが効果的であろう。

五 おわりに

学生に対する調査に基づき、就職活動の実態について未内定者を中心に検討してきたが、本稿でうかがいあがった未内定者像は、大学を十分に活用せず、企業にも接触せず、相談する相手にも恵まれていないというものであった。彼らは大学入学時から、大学へのコミットメントが低かったことがうかがえる。

現在、就職とは異なる観点から、学生をいかに大学に定着させるかが課題となっているが、学生が「大学生らしい」学生生活を送ることは、学生の進路選択においてもひとつの決め手となっている。大学がすべての学生をいかに早くから取り込んでいけるかという課題は、大学生生活の充実という観点からだけでなく、進路選択という場面においても、重要性を増してることが予想される。

【引用文献】

労働政策研究・研修機構（二〇〇六）『大学生の就職・募集採用活動等実態調査結果Ⅱ』JILPT調査シリーズ No.17
<http://www.jil.go.jp/institute/research/2006/017.htm>